

天栄村立牧本小学校 絵画実技研修

**小学校における絵画指導について～題材選定と表現技法**

**場所** 天栄村立牧本小学校

平成25年8月30日(金)

**作成者:** 須賀川市立仁井田小学校 教諭 國井 伸行

# 天栄村立牧本小学校 絵画実技研修

## 小学校における絵画指導について～題材選定と表現技法

### ■ 児童画の見方と絵画指導のあり方

1 **はじめに** 発達段階に応じた題材選定（石川地区造形作品より）

2 **指導事例（1） 指導者 國井伸行**



### 題材名 私が輝いた日「やった速く泳げた」 4年 男子A

題材の予告を受け、水泳が得意なAは、校内水泳記録会で活躍した様子を絵に描こうと思った。Aは、プールの中で泳いでいる様子をどのように表そうか考えた。泳いでいる自分を画面に表わそうとするが、後ろ向きになってしまい顔が見えなくて困ってしまった。

わたしは、Aと対話をするこゝで、背泳ぎをしているところを描くことを提案した。すると筆がどんどん進み、Aは、自分と友達の様子を書き上げた。一通り描き終えたところで、今度は、プールらしくないと悩んでいた。指導者は、Aと水泳記録会の時のプールの様子について対話を始めた。すると今度は、水しぶきと波があったことに気が付いた。Aは、水しぶきを白で、波を青で描きこんだ。最後にAは、水に浮いている感じを出したいと思った。指導者は、「プールの底に何か見えなかったか。」と助言をした。

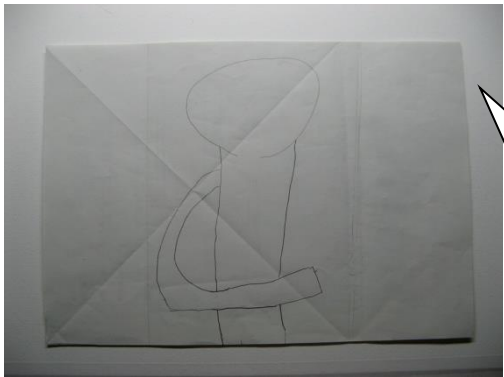
すると、影を描き入れた。よい絵というのは、人の目を引き付ける見栄えのする絵だけなのだろうか。**大人には到底表現できない何かがある。それが児童画である。**この絵の印象は、以下のとおりである。

- 速く泳げた喜びが、とても生き生きと画面からあふれている。
- 水泳をしている様子が、写真では撮影することができない真上からとらえられており、知的写実性と視覚的写実性の狭間の10歳というこの頃の児童特有のとらえ方をしている。(全くの写実ではない。そこがおもしろい。)
- 画面の中の黒やユニークな人の形など色や形が印象的である。

## 指導事例(2)

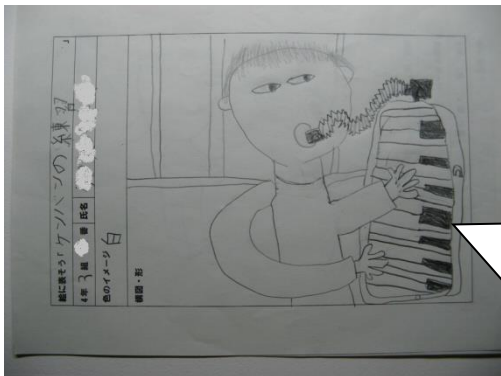
1 題材名 **私が輝いた日(わすれられない日)** A表現(2) 第4学年

### 2 指導の実際

| 段階       | 学習活動・内容   | 個を生かす支援  |
|----------|---|--|
| 思いや願いをもつ | 1 本単元の活動のめあてをもつ。<br>自分が輝いている場面を絵に表そう。   | <ul style="list-style-type: none"> <li>① さまざまな場面を想起させ、発表させることで、イメージを膨らませる。</li> <li>② イメージが持てない児童には、対話を通して個別指導をする。</li> <li>③ 頭で考えるだけでなく、スケッチを通してさらにイメージを具体化していくことができるようにする。</li> </ul>  |
|          | 2 ラフスケッチをする。<br>※ 鍵盤ハーモニカを練習していた自分をうまく表現できない児童Aのスケッチ。                               |  |
| あら       |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>① 人物をうまく表現できない児童Aには、紙を折ってみることで人物の配置をつかませる。</li> <li>② 次にディテールを気にせず、ラフに頭、体、腕を大きくとらえるように助言する。</li> </ul> <p>※ この段階では、まだ首や腕の太さ、関節が意識されていないのが分かる。</p> |

わ

す



(1) 写真によるイメージ

(体の構成、腕の付き方、手の関節)

(2) 混色、重色、にじみ、ぼかしの効果

(3) 線の太さ



4 本活動を振り返る。

(1) イメージの深まり

(2) 形の捉え

ふ (3) 豊かな色づかい

り

か

え

る

5 互いの作品について話し合う。

(1) 観点を定めて話しあう。

(イメージ、形、色)

① さらにイメージを具体化させるためにワークシートを用い、スケッチをさせる。

② 色のイメージ、構図・形を意識しながらスケッチをするよう助言する。

※ 鍵盤ハーモニカを一生懸命練習している姿を現したが、まだ体から出る腕が不自然なのが分かる。

① 演奏している様子をデジカメで撮影し見せる。写真資料（デジカメで撮影）を使って、鍵盤ハーモニカを吹くときに人物の特徴をつかませる。（イメージを限定してしまうので最初から写真は用いない。）

② 彩色については、背景から描くよう助言する。

③ 混色を促すために、使う絵の具の数を限定する。（赤、青、黄色、黒、白）

④ にじみやぼかしを使うとともに、温かく感じる色や冷たく感じる色を使って自分のイメージの色を作り出すよう助言する。

⑤ 線に動きと表現をつけるために、複数の筆（太筆、細筆、面相筆）を使うことを助言する。

※ イメージを基に、形や色に対する感覚を培う指導をしたところ、鍵盤を引く手やホースをくわえる口の様子を描くことができた。また、鍵盤ハーモニカを一生懸命練習するところや、鍵盤ハーモニカホースや鍵盤の白い色を引き立たせる色使いをすることができた。

## ■ これからの児童画と絵画指導のあり方

児童画の指導ポイントをまとめると、以下のとおりである。

### (1) 形・色・イメージを意識して表現されているか。

- 色に人は引きつけられる。色の特性例（赤は特に目を引く色である。）
- 形の面白さ

### (2) 児童の発達段階に即しているか。（別紙参照）

- 「児童の発達と表現との関係」についての理解がないまま指導をしているなど感じる作品が多い。

### (3) 描いた児童の気持ちが伝わってくるか。

- 感動がない絵は、いくらテクニックがあっても見る人に伝わらない。
- 教育としての絵の指導であるという点は絶対に忘れてはいけない。

### (4) 作品に対する指導者のかかわりはどうかが。

- これは推察するしかないが、児童の思いや願いを尊重していきたい。

### (5) 児童の表現への工夫が伝わってくるか。～造形性の豊かさ

- 全体にまとまりがある。       調和がある。       動きがある。
- 空間を感じる事が出来る。  ボリュームがある。
- リズムがある。                       色彩が豊かである。

### (6) 絵と描いた児童のかかわりが感じられるか。～個性的であること

- 対象から受けた感動をストレートに表している。
- その子なりの工夫が見られる。
- 感情、愛情がにじみ出ている。（見る人の顔がほころぶ）
- 対象と本人との関わりが感じられる。



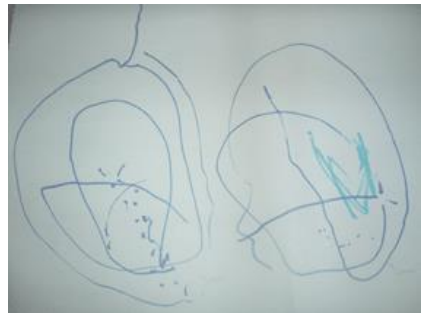
## ■ 児童の発達段階と絵画表現

**ア 錯画期(2~4歳)・・・なぐりがきの時期。**(別名:スクリブル)  
たたくこと(上下運動)によって残る点、左右に動くこと  
によって残る線から、最終的には始点と終点が一致する円を  
描くようになる。



錯画期の例

**イ 象徴期(3~4歳)・・・円や線などによってなにかを表わそう  
とする時期。**(別名:意味づけ期)大人の感覚からは一見た  
だのなぐりがきに見えても、子どもはその絵にイメージ(象徴)  
を与えている。



象徴期の例(お父さんと僕)

**ウ 前図式期(4~7歳)・・・画面上にイメージが並置される時期。**(別名:カタログ期) 象徴期にく  
らべて具体的な人間の姿を描くようになる。この時期の特徴  
的なものに、頭部から手足の生えた「頭足人」がある。



頭足人の例

**エ 図式期(7~9歳)・・・図式期の「式」というのは、型と  
か形式をいい、絵を描くときに人物、家、樹木、花、動  
物、太陽、雲などの表し方がその子ども独特の(特有の)  
描き表し方でいつも決まった形(色)で描くことになり、シ  
ェーマ(図式)と呼ばれる。空間意識が生まれてきて、  
地面を表わす線(基底線)を描くようになる。**

a **展開図描法:**真上から物を見たように描く。

b **レントゲン描法:**物の中が透視されたように描く。



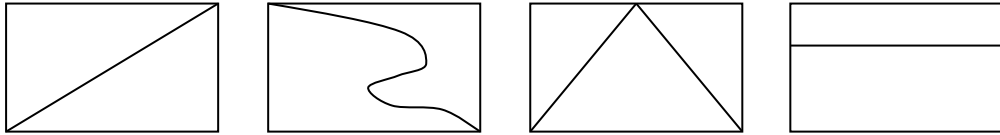
**オ 写実期(9~13歳)・・・現実に自分の目に見える世界を描  
く時期。** 正確な再現表現を行おうとする傾向がみられる反  
面、自由な発想で描くことが減少する。



## ■ 実技演習

### 1 風景画の描き方(例)

(1) 構図を考える。



(2) 線描は絵の邪魔にならないものを。

- 薄い色のコンテ
- 水彩絵の具で直接

(3) 線描するものと彩色で描くものを計画的に。

- 空の描き方
- 樹木の葉の描き方

(4) 彩色は、遠景から中景、近景の順に。(淡く→濃く)

### 2 人物の描き方(例)

(1) 体を紙版画の部品のようにとらえて描く。

- 体や洋服をパーツでとらえさせる手立て
- 下の色を覆い隠す彩色(濃度:クレパス、水彩)

(2) 輪郭を強調させて描く

- 描画材の選択、(割りばしペン、サインペン、筆)
- いろいろな線(濃淡、太さ)
- 彩色で表現するものは線描しない。

